

池波正太郎を歩く



須藤靖貴

|著者| 村上 龍 1952年、長崎県に生まれる。武蔵野美術大学中退。'76年に『限りなく透明に近いブルー』で群像新人文学賞、芥川賞を、'81年に『コインロッカー・ベイビーズ』で野間文芸新人賞、'96年に『村上龍映画小説集』で平林たい子文学賞、'98年に『インザ・ミソスープ』で読売文学賞、2000年に『共生虫』で谷崎潤一郎賞、'05年に『半島を出よ』で野間文芸賞、毎日出版文化賞、'11年に本作で毎日芸術賞を受賞。小説、エッセイにとどまらず「TOPAZ〈トパーズ〉」などの映画製作や、サッカー、国際政治、経済に関する著作など、あらゆるジャンルで旺盛な活動を展開している。

うた
歌うクジラ（下）

むらかみ りゅう
村上 龍

© Ryu Murakami 2013



講談社文庫

定価はカバーに
表示してあります

2013年10月16日第1刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部 (03) 5395-3510

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

Printed in Japan

デザイン——菊地信義

製版——株式会社精興社

印刷——株式会社廣済堂

製本——株式会社若林製本工場

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えます。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277676-9

目次

,

第十五章 水路 9

第十六章 隔離施設 その1 45

第十七章 隔離施設 その2 71

第十八章 隔離施設 その3 89

第十九章 理想村 111

第二十章 安息の洞窟 151

第二十一章 廃墟 175

第二十二章 地球港19号岸壁 187

第二十三章 宇宙へ 205

第二十四章 第三レジデンス 217

第二十五章 入場審査室 227

第二十六章 B D最左翼35号棟 241

第二十七章 35号棟F その1 253

第二十八章 35号棟F その2 277

第二十九章 35号棟F その3 309

第三十章 35号棟F その4 335

最終章 Eポッド 369

なんのためにもなく よしもとばなな 380



講談社文庫

常州大子回書館

藏書章

歌うタジラ (下)

村上 龍

講談社

目次

·

第十五章 水路 9

第十六章 隔離施設 その1 45

第十七章 隔離施設 その2 71

第十八章 隔離施設 その3 89

第十九章 理想村 111

第二十章 安息の洞窟 151

第二十一章 廃墟 175

第二十二章 地球港19号岸壁 187

第二十三章 宇宙へ 205

第二十四章 第三レジデンス 217

第二十五章 入場審査室 227

第二十六章 B D最左翼35号棟 241

第二十七章 35号棟F その1 253

第二十八章 35号棟F その2 277

第二十九章 35号棟F その3 309

第三十章 35号棟F その4 335

最終章 Eポッド 369

なんのためにもなく よしもとばなな 380

歌うクジラ 下巻

第十五章 水路

1

山を越える、そう言ってアンジョウはぼくたちにそれぞれ一つずつ簡易型暗視ゴーグルを手渡し、先導しながらバス列の背後の山の斜面を上りはじめた。ところどころに灌木のある草むらの斜面を少し上がると海のほうから風が吹いてきて心地よかった。羊バスに充ちていた匂いも消えた。月が真上にある。月の明かりは山の輪郭と草木をシルエットにして浮かび上がらせるだけで、バス列から数十メートル離れると足元はまっ暗になった。先頭に行くアンジョウが暗視ゴーグルを付ける。ぼくたちもならってごく普通の眼鏡と同じ大きさと軽さとデザインのゴーグルを付けた。簡易型暗視ゴーグルは可視光線を増量するわけではなく、電子を放射して限定された視界の形状を画像信号にして映し出す仕組みだと父親のデータベースにあった。装着するのははじめてで、形状の映像が実際と微妙に違うので最初とまどった。映像は周辺の岩や草木や地面の形状を正確に示す。だが、背丈の長い草が金属のように感じられること